

健康文化

一葉の写真

今井田 二三子

それは日本医師会生涯教育講座に出席した時のことでした。最近薬剤副作用が喧しく言われるようになり、私も最近リウマチ性の関節炎と思われる人に抗リウマチ薬と鎮痛剤を出し、その結果白血球の減少がきて肝を冷やしたばかりの時でしたので今回の講演の高齢者薬物療法の問題点、また多剤併用の問題といったタイトルに、これは是非聴かねばと勢い込んで出かけました。その時第一演者のU教授の最初に出されたスライドの写真を見てびっくりしました。なぜなら、その写真は県医師会創立50周年を記念して、県医学界の歴史が県医ニュースに連載されることになり、現岐阜大学医学部の母体となった女子医専の開校と、その推移について資料の提出と記憶にある変遷について記述を文化史検討委員の一人であられるF先生に求められ、記述の方は何の資料も手元にないためお断り申し上げ、手許にあった一葉の写真を先生にお渡ししたその写真が映し出されたのです。空襲を受けながら辛うじて焼け残った付属病院の煤けた屋上で私達三期生が当時第一内科におられた青年医師U先生を囲んで写っているものでした。そのU先生とクラス全員が講演の始めに何の予告もなしに突然スクリーン一杯に映し出されたのですから一瞬驚きのあまり頭の中がパニック状態になりましたが、次の瞬間写真の中のU先生と第一演者のU教授が同姓であるのにハッと気付きました。と同時にU教授も「この中に写っているのが、私の父です」と静かに告げられました。

あまりびっくりしたため、その日のU教授の講演内容は斑模様にはか私の頭の中に入りませんでした。その時U教授が「父が岐阜の病院に在職した記録が何にも残っていない」と言われた言葉が心に残り、早速葉書を認めここにお世話になった生徒がおりますと厚かましくもU教授に書き送りました。多忙であられる教授が私の一片の葉書に目を留められる事はまずないものと思っておりましたが、U先生の教えを受けたものがここにおりますと叫びたかったのです。するとU教授より心うたれる手紙をいただき、またまたびっくりしました。私の知る時の教授と呼ばれる先生方は雲上人のようで伝えたい事柄をどう言い出したらよいのか戸惑ったものでした。名もない片隅の医者教授自らの手紙を

いただくなど昔を知る者には考えられない事でした。その中に御父君の U 先生は当時廃校か存続かと揺れに揺れていた女子医専存続のため幾度となく東京へ足を運ばれた話を御父君からお聞きになられた事が書いてありました。U 先生は東大の御出身で東京の地理にお詳しい事でその任をお引き受けいただく事になったのではないかと推測します。当時の上京は、汽車は満員鮪詰めで、時には車窓から乗り降りをお儀なくしなければならなかったり、食糧は地元で調達して持参しなければならず、想像を絶する困難さがありました。勿論、私達も入学早々学業どころでなく女子医専存続と大学への昇格のため運動はしましたが先導していただける方があったからこそと思います。U 先生がそうした岐阜大学医学部誕生への大切な礎を築いていただいた先生方のお一人であったことを U 教授の手紙で改めて知ることができました。

私達三期生が U 先生の講義を受けたのはごく短い間で、先生は名市大の方へ移られ、その後の御消息は風の便りで耳にする程度でしたが、体調を少しくずしておられるということですが今も御健在なことがわかりました。

約半世紀前の一葉の写真が、未知の人を既知に導き、人の心を繋ぎ、埋もれた史実を掘りおこし、セピア色の過去を現在に甦らせてくれるものであるとしみじみ思うこの頃です。

(内科開業医)